

令和6年度病害虫発生予報第3回（イネ）

令和6年6月5日
JA愛知東営農部
新城設楽農林水産事務所
農業改良普及課

病害虫発生予報（6月）の概要等

1 イネいもち病について

○いもち病は、気温が20～25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。補植用の置き苗を放置するといもち病の伝染源になりますので、除去しましょう。

2 イネ紋枯病について

○イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に前年の発生量が多かったほ場では、発生状況に注意してください。

3 トビイロウンカ及びセジロウンカについて

○現時点で本県への飛来は確認されていません。今後の情報に注意してください。

4 ジャンボタニシについて

○ジャンボタニシの食害が懸念されるほ場では、食害を受けやすい田植から3週間程度までは浅水管理を行いましょう。貝の発生が多い場合は薬剤防除を行いましょう。

斑点米カメムシ類情報第1号（イネカメムシ対策）概要等

○近年、イネカメムシが増加傾向で、令和5年度は過去10年で最大の発生量となっており、本年も多発が懸念されます。特に周辺と出穂期が異なる品種を作付けしている場合、集中して被害を受ける可能性が高くなりますので、別紙を参考に防除してください。

【農薬散布時の注意点】

- ・使用前に農薬ラベルをよく確認する。
- ・周辺作物への農薬の飛散防止に努める。
- ・農薬の調製・散布時には、防除衣、マスク、手袋、メガネを着用しましょう。